在留支援のためのやさしい日本語ガイドライン
話し言葉のポイント

経緯

○2020年8月　出入国在留管理庁と文化庁は、**「在留支援のためのやさしい日本語ガイドライン」**を策定
○2021年8月　**「やさしい日本語の普及による情報提供等の促進に関する会議」**を設置
○2022年3月　**同会議報告書「やさしい日本語の普及による情報提供等の促進の在り方」**において、書き言葉のガイドラインに加え話し言葉についても国が留意事項を取りまとめ、公表する必要性について指摘
○2022年7月　**「話し言葉のやさしい日本語の活用促進に関する会議」**を設置
　⇒在留外国人とのコミュニケーションの際に留意すべき実践的な事項を「話し言葉のポイント」として取りまとめ

現状

○　全年齢を対象とした「国語に関する世論調査（2019年度）」では、やさしい日本語で外国人に伝える取組を「知っている」と回答した人は全体の約3割。
○　「在留外国人に対する基礎調査（2021年度）」では、自身の日本語能力を「日常生活に困らない程度に会話できる」以上と回答した在留外国人が8割強。

やさしい日本語の話し言葉のポイント　効果的な話し方や、言い換え等を6つのポイントとして整理

（1）はじめの心得

（内容を整理し、相手に配慮する）
✔伝えたい情報を取捨選択し、整理する
✔このくらい話せば分かるだろうという思い込みを取り払う　等

（2）聴き方の心得

（相手の話をしっかり聴く）
✔相手の話を聴く態度を示す
✔落ち着いて対応する　等

（3）話の進め方

（反応を見る、臨機応変に対応する）
✔やり取りがうまくいかない場合もフリーズしないで、話を継続する
✔反応を見ながら自分の話し方を調整する　等

（4）話し方の基本

（短くはっきり言い切る）
✔短く切って話す
✔文の最後まで言い切る　等

（5）適切な言い換え

（相手が理解できる言葉に言い換える）
✔難しい言葉・言い回しを使わない
　例：納税　→　税金を払う　等

（6）言葉以外の工夫

（ノンバーバルコミュニケーション）
✔資料・写真・図や実物を活用する
✔コミュニケーションボードを準備する　等